

★ 果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ)情報

多発が予想されますので、今後の発生動向に注意してください

【多発の根拠】

- ①(越冬状況)本年2月に実施した越冬調査では、チャバネアオカメムシ成虫(写真)の越冬量は、丹後地域、南丹地域とも、**平年(例年)比やや多い**状況でありました(表)。
- ②(今後の天候)大阪管区气象台平成28年2月24日発表の向こう3か月(3~5月)の近畿地方の気象予報では、**気温は平年比高いと予想されており、本種を含む果樹カメムシ類の発生、増殖に好適な高温条件が続く見込みです。**
- ③(スギ、ヒノキの花粉飛散予測)環境省平成28年1月28日発表のスギ、ヒノキの花粉飛散予測(第2報)では、**花粉の飛散量(京都市)は例年比やや少ないと予想されていることから、果樹カメムシ類の主要な餌であるスギ、ヒノキの球果の結実量も少ないと予想され、餌不足から果樹園へ飛来する果樹カメムシ類が多くなると考えられます。**



写真 チャバネアオカメムシ成虫
左：越冬期の体色
右：活動期の体色

【防除上の注意事項】

- ①被害は、園による差が大きく、また、園の周囲で多くなるなど多様です。園内外の成虫の発生状況などを常に観察し、飛来を認めたら防除してください。**特に、山林等の隣接園では注意が必要です。**
- ②果樹カメムシ類は夜行性であるため、夕方の防除が有効です。
- ③合成ピレスロイド剤の連用は、ハダニ類やカイガラムシ類が多発する恐れがありますので避けてください。
- ④防除薬剤を使用する際は使用基準を厳守してください。

表 チャバネアオカメムシの越冬調査

調査年/調査地域	丹後地域		南丹地域	
	平均生存虫数 (頭/地点)	個体確認地点率 (%)	平均生存虫数 (頭/地点)	個体確認地点率 (%)
H28	0.38	25.0	0.60	60.0
発生量	例年比やや多い		平年比やや多い	
平年(例年)値	0.22	22.5	0.27	25.0
H27	0.43	28.6	0.50	50.0
H26	0.00	0.0	0.17	16.7
H25	0.14	14.3	0.83	50.0
H24	0.43	42.9	0.00	0.0
H23	0.17	33.3	0.00	33.3
H22	0.67	50.0	1.17	50.0
H21	0.00	16.7	0.25	25.0
H20	0.17	16.7	0.00	25.0
H19	0.00	0.0	0.00	25.0
H18	—	—	0.00	0.0

落葉の採取日：H27.12.14、丹後地域：8地点、南丹地域：5地点。1地点当たり50Lの落葉を採取した。
採取した落葉はビニール袋に入れ、無加温のガラス温室に放置した。
チャバネアオカメムシ成虫の越冬数調査：H28.2.16。